

〈総合的な学習の時間〉

社会に参画しようとする態度を育成する指導の工夫

——地域を見つめ、問いの追究・振り返りの工夫を通して（第5学年）——

石垣市立平真小学校教諭 新 里 さつき

I テーマ設定の理由

近年、グローバル化の進展と科学技術の進歩により、我々を取り巻く環境や社会など様々な分野において急速に変化し、さらには、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大など、まさに予測困難な時代となっている。そのような時代において、今まで以上に子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決することが求められている。『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編』（以下『解説総学編』）の目標に「探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく問題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを目指す。」と示されており、また、今後、子供たちがよりよく課題を解決するために必要な資質・能力を育成していくことが求められている。

私自身が昨年度受け持った6年生の全国学力・学習状況調査の結果において、「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の問いに対し、肯定的な回答は約50%の低い結果となった。更に「地域や社会をよくするために何をすべきか考えたことはありますか」の質問に対しては、肯定的な回答は全国と県では共に約52%であった。しかし、本校は約45%で全国や県よりも下回っていた。その要因として、地域に対する関心や関わりをもつ機会が少なく、思いや繋がりをもつことができずにいるのではないかと考えた。これらの課題に加え、これまでの私自身の総合的な学習の時間の学習活動を振り返ってみると、私自身が一方的に課題を設定し、必要以上に指示を与え、誘導的に導くことが多かった。その際、児童に問いをもたせず、目的が不明確なまま調べ学習をさせていた。また、振り返りを疎かにして、毎時間させず不十分であった。その結果、児童が何を学んだか自覚できない様子が見られた。更に、地域に関する単元の学習でも、社会に参画しようとする態度まで学習を展開することができていなかった。

これらの課題を解決するため、本研究では、社会に関わり参画しようとする態度を育成するために、問いの追究と毎時間の振り返りを意識しながら、地域への興味・関心を高めさせる学習指導を行う。まず、総合的な学習の時間の単元名を「石垣島の魅力再発見・発信」と位置付けて、児童に地域への興味・関心をもたせ、計画していく。まず、石垣島は自然豊かで、伝統文化が多いという特徴を生かし、地域の「人・もの・こと」など様々な視点から活用し、学習を展開していく。次に、地域の「人・もの・こと」を活用し、地域に対する思いやつながりを共有させることで、児童に「詳しく知りたい」や「なぜだろう」等と知りたいと思う気持ちや様々な疑問が生まれ、問いを追究したくなるであろうと考える。また、自分事として課題を設定することができ、児童が課題を見つけ、毎時間の振り返りをすることで児童自身の思考が整理され、自分の学習状況を知り、課題を解決しようとするのではないかと考える。本研究では、地域の素材「人・もの・こと」を活用することを通して、自分の問いを追究し、毎時間の振り返りを行うことで学びが深まり、充実感・達成感を味わわせ地域に対する思いやつながりから、社会に参画しようとする態度を養うことができるであろうと考え、本テーマを設定した。

〈研究仮説〉

総合的な学習の時間「石垣島の魅力再発見・発信」の学習において、地域素材を活用し、問いを追究することと振り返りの工夫を行うことにより、社会に参画しようとする態度を育成することができるであろう。

Ⅱ 研究内容

1 社会に参画しようとする態度とは

『解説総学編』では、「総合的な学習の時間を通して、自ら社会に関わり参画しようとする意志、社会を創造する主体としての自覚が、一人一人の児童の中に徐々に育成されることが期待されているのである。実社会・実生活の課題を探究しながら、自己の生き方を問い続ける姿が一人一人の児童に涵養されることが求められている」と示している。また、育成を目指す三つの柱の「学びに向かう力、人間性等」について「よりよい生活や社会の創造に向けて、自他を尊重すること、自ら取り組んだり異なる他者と力を合わせたりすること、社会に寄与し貢献することなどの適正かつ好ましい態度」と示している。北俊夫（2018）は、社会に参画することについて、「社会へのよりよい能動的な関わりを言い表しているものであり、社会に協力する、参加するといったすでに出来上がっている社会に関わること」と述べている。以上より、本研究では表1に社会に参画しようとする態度の見取りをまとめた。本研究では「ア自ら取り組んだり他者と協働したり、力を合わせたりする姿」と「イ主体的に社会に関わろうとする姿」に焦点を当て、表1のア、イの姿を社会に参画しようとする姿と捉え、研究を進めていく。

表1 本研究における社会に参画しようとする態度の見取り

ア	自ら取り組んだり他者と協働したり、力を合わせる姿
イ	主体的に社会に関わろうとする姿

2 問いを追究するについて

『「問い」が生まれるサポートガイド（2022）』（以下、『問いサポ』）では、問いをもつことを「子供たちが主体性を発揮している授業では共通して、子供たちが追求したいと思う問いが生まれています。問いをもつということは、授業で学ぶ内容について、子供たちが与えられた情報を単に受け入れるだけでなく、それをもとに、論理的、客観的で合理的な思考を展開させることだと捉えており、価値観が多様化し、正解や不正解が明快に導き出せない社会では、必要な力」と記している。また、『沖縄県教育委員会 沖縄県学力向上推進5か年プラン・プロジェクトⅡ』では、「問いが生まれる授業は、主体的・対話的で深い学びを基本とし、本県の課題を踏まえた授業像です。学びが深まったことでまた、新たな問いが生まれ、探求したくなる。」と記している。本研究での問いを追究するとは、児童が興味・関心をもち、問いが生まれ、意欲的に問いを解決しようとし、探究する。更に新たな問いが生まれ、それが繰り返されていくことと捉える。

3 振り返りの工夫

『問いサポ』では、振り返りの意義を「解決方法や学んだことに自信をもったり曖昧な点が明確になったりする。新たな問いをもつ機会となる。」と記している。また、「振り返りの指導のポイントの一つとして、振り返る視点を児童に示すこと」とある。このことから、本研究では、振り返りシートを教師が『問いサポ』の示す振り返りの視点（表2）を参考に児童に提示し、振り返りの視点を意識した毎時間の振り返りを行えるようにする。

表2 振り返りの視点（『問いサポ』引用）

習得	①学びの変容を振り返る	「〇〇が分かった。」 「〇〇ができるようになった。」
	②学びの過程や結果を振り返る	「〇〇することがわかった。」 「〇〇することができるようになった。」
	③交流を振り返る	「〇〇な考えもあるんだ。」
活用 探究	④他の単元・教科で活用する	「〇〇でもできるかやってみよう。」 「もっと〇〇について考えたい。」 「もし〇〇だったらどうかな。」

4 地域素材の活用について

『解説総学編』では、「総合的な学習の時間では、地域の素材や地域の学習環境を積極的に活用

することが期待されている」と示している。また、鈴木登美代（2017）は、「各地域にはそれぞれの良さや特徴、長年住み続けている人々など多くの素材や人材が存在し、それらを活用しながら探究課題を設定していくことが望ましい。」また、「地域と一体となって取り組むことで地域への親愛や愛情が膨らみ、地域への誇りが培われ、ふるさととして意識するようになる。」と述べている。このことから、地域の「人・もの・こと」である地域素材を活用し、児童の興味・関心を高め、自ら調べたいと主体性を引き出し、探究活動の出発点に導いてあげることが学びへのエネルギー源になると考える。そして、児童が地域素材に目を向けて取り組み、課題が解決できた時、最終的には地域への親愛や愛情、誇りに繋がることで社会に参画しようとする態度に繋がるのではないかと考える。

5 探究のプロセス

『解説総学編』では、「探究的な学習を実現するため、「①課題の設定→②情報の収集→③整理・分析→④まとめ・表現」の探究のプロセスを明示し、学習活動を発展的に繰り返していくことを重視してきた。」と示している（図1）。また、田村学（2018）によると「探究的な学習に象徴的に現れるように、子供の学びには豊かな学習過程としてのプロセスがあり、そのプロセスが単元において繰り返されていく。」と記している。本研究でも、上記に示した①～④の手順で学習を展開していく。

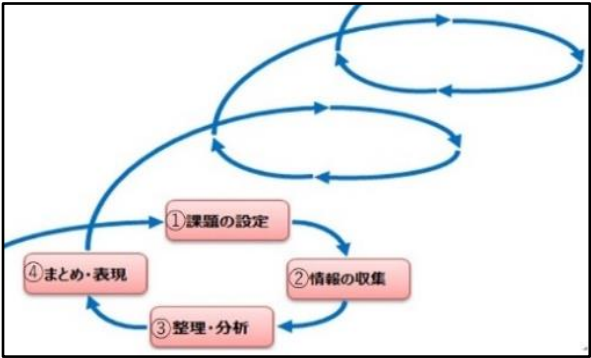


図1 探究的な学習における児童の学習の姿

(1) 課題の設定

『解説総学編』では、「児童が実社会や実生活に向き合う中で、自ら課題を持ち、その意識が連続発展することが欠かせない。しかし、児童が自ら課題をもつことが大切だからといって教師は何もしないでじっと待つのではなく、教師が意図的な働きかけをすることが重要である。」と示している。そこで本研究では、課題設定のために児童に問いを持たせるような発問を行う。また、児童が取り組んでみたいことを自身で決めることができるように教材との出会わせ方を工夫する。そのために、「石垣島の魅力再発見・発信」の単元名から、児童に興味・関心をもたせる。その後、思考ツール（図2）のウェビングを活用し、グループで児童に石垣島の魅力を表出させる。そして、ウェビングで表出させたものを用いて、K J法（図2）で仲間分けをして、整理する。地域の「人・もの・こと」である素材を活用して、市役所の方々に石垣島の魅力と観光等についての話を聞く。その際、児童に地域の「人・もの・こと」や活動をしている方々の思いや願いも考えさせたい。石垣島の魅力の中から児童が探究したい課題を設定し、同じ課題の児童同士をグループにして活動をする。

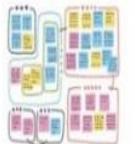
手法	「考えるための技法」	ツール
ウェビング	関連付ける	
K J法	整理・分析する	

図2 課題設定で使用する思考ツール

(2) 情報の収集

『解説総学編』では、「自分で情報を集めることが欠かせない。自分で何が解決に役立つかを見通し、足を運んだり、情報手段を意図的・計画的に用いたり、他者とコミュニケーションを通して情報を集めることが重要である。」と示している。この過程では、自分の設定した課題を基に、どのように情報を収集させるかを児童に考えさせることが必要である。本研究では、設定した課題について自分の「問い」を明確にし、自分事として捉えるため、地域の「人・もの・

こと」を活用し、複数の根拠のある情報を収集させる。その際、図書資料・広報誌・インターネット等から集め、情報が不足している場合は、移住者や地域の方、それに携わる方にインタビューすることも視野に入れる。

(3) 整理・分析

『解説総学編』では、「児童は収集した情報を比較したり、分類したり、関連付けたりして情報内の整理を行う。このことこそ、情報を活用した活発な思考の場面であり、こうした学習活動を適切に位置付けることが重要である。」と示している。また、田村（2015）は、「総合学習の探究の過程で整理・分析はとりわけ難易度が高い。」と述べている。実際、これまでの私自身の実践でも、ここが課題の1つでもあった。本研究では、収集した情報が必要かどうか明確になるように、思考ツールを意識させ、可視化する。思考ツールのフィッシュボーン（図3）を活用し、児童が持ち寄った情報を協働して、整理・分析することで、多様な視点から思考が促され、児童が協働的に学ぶ場も確保しつつ、課題の解決に向かわせることができると考える。また、グループでフィッシュボーンを活用し、その際、いつ、どこで、誰が、何を、なぜ、どのように、の英単語の頭文字を取った5W1Hに基づいて、自分たちが発信したい人、場所、伝え方、どうして伝えたいかを協働的に話し合いながら、表現方法を考えることで、石垣島の魅力を発信することができるであろうと考える。

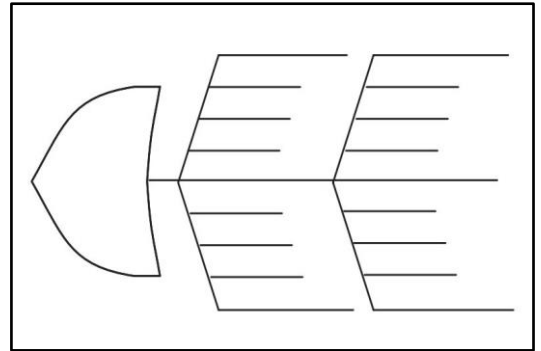


図3 フィッシュボーン

(4) まとめ・表現

情報の整理・分析を行った後、それをグループの考えとして壁新聞・パンフレット等にまとめたり、他者に伝えたりする学習活動をする。田村（2015）は、この過程で配慮すべき点として3つを挙げている。1つ目は、「相手意識・目的意識を明確にして、まとめたり表現したりすること。」2つ目に「まとめたり表現したりすることが、情報を再構成し、自分の考えや新たな課題を自覚することにつながる。」3つ目に「伝えるための具体的な方法を身につけると共に、伝えるべき内容を十分に蓄積しておくこと。」であると述べている。この過程でも、各教科で身に付けた知識や技能を活用しながら、課題を解決していくことが効果的と考える。

本研究では、まとめ・表現活動は、相手意識・目的意識をもち、説得力が増すような視点をもたせるために、5W1Hでまとめる学習活動をする。その際、表現方法を児童に選択させ、空港や港等、観光客や修学旅行生が訪れる場所に成果物を展示し、石垣島の魅力について多くの人が目にするよう工夫することを考える。また、成果物を作成するにあたっては、多くの人が目にするような工夫をグループで話し合わせながら、記事の構成や配置、色づかい等を考えて発信する機会を設ける。その後、新たな疑問が生まれたり、自分の生活を振り返ったりすることにも期待する。

Ⅲ 指導の実際

1 単元名 「石垣島の魅力 再発見・発信」

2 単元の目標

石垣島について調べたり、魅力再発見に向けた活動に協働して取り組んだりすることを通して石垣島の魅力に携わる人々の思いや願いを理解するとともに、石垣島の魅力発信に関する具体的な取り組みについて考え、石垣島とのつながりについて自らの生活や行動に生かすことができるようにする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①石垣島には、独特の特徴があることを理解するとともに、その魅力を発信している人々の思いや願いに気づいている。(概念的な知識の獲得) ②石垣島の魅力を理解し、人・もの・ことと関わりながら探究的に学習している。(技能の獲得) ③石垣島と自分たちの生活には関連があることの理解は石垣島の魅力を再発見し、探究的に学習し、発信したことの成果であると気づけている。(探究的な学習の良さの理解)	①石垣島の複数の魅力から自己の課題を設定するとともに、解決に必要な調査方法を明確にしながら計画を立てている。(課題設定) ②石垣島の魅力をよりよく理解するために必要な情報を調査する対象に応じた方法を選びながら収集している。(情報収集) ③石垣島の魅力を発信する活動を進めるために、事象を比較したり関連付けたりして理由や根拠を明らかにし、具体的な活動を決定している。(整理・分析) ④石垣島の魅力発信に向けた自分の考えを表現方法の特徴や表現の目的に合わせて分かりやすくまとめている。(まとめ・表現)	①石垣島の魅力再発見・発信するという目的に向け、自分自身で設定した課題の価値を見いだそうとしている。(自己理解・他者理解) ②自分と異なる意見や考えを生かしながら、協働的に探究活動に取り組もうとしている。(主体性・協働性) ③自分と石垣島や地域の人々等とのつながりに気づき、地域のためにできることを考えようとしている。(将来展望・社会参画)

4 単元計画と評価計画 (全 16 時間)

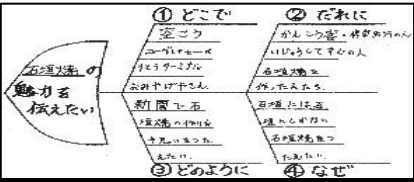
次	時	ねらい・学習活動	評価規準			評価方法		
			知・技	思・判・表	態度	行動観察	ワークシート 思考ツール	振り返り シート
課題 設定	1	オリエンテーション 学年のテーマを提示し、石垣島の魅力について考える 今後の活動の見通しをもつ			①	○		○
	2	石垣島の魅力についてグループで ウェビング・KJ 法を活用する (思考ツール)	②		②		○	○
	3	石垣島の魅力を市役所の方に話を 聞く	①		①	○		○
	4	自分の課題を設定し、同じテーマ の児童同士をグループにする。		①	①		○	○
情報 収集	5 ～ 8	自分が設定した課題を解決するた めに複数の根拠のある情報を集め る	②	②	②		○	○
	9	お互いの進捗状況を確認するた めに中間発表会をする		②	②	○		○
整理 ・ 分析	10	中間発表会の助言を基に、集めた 情報を基に個人で情報をフィッ シュボーンで整理する (思考ツ ール)		③				○
	11 本 時	個人で整理した情報をグループで フィッシュボーンを使い整理する (思考ツール)		③	②	○	○	○
	12	石垣の魅力が伝わる表現方法をグ ループで考え、決める		③	②	○		○
まとめ ・ 表現	13 14	グループで決めた表現方法で資料 を作成する		④	②			○
	15	石垣島の魅力を発信する			③	○		○
	16	振り返る	③		③		○	○

5 本時の指導 (11/16 時間)

(1) 目標

- ① 中間発表会で出たアドバイスや質問をもとに、個人で整理した情報が石垣島の魅力になっているか分析し、グループで協力して情報を整理している。
- ② 相手意識や目的意識をもち、グループで協働的に話し合い、フィッシュボーンで情報を整理している。

(2) 展開

	学習活動	指導上の留意点 (◇)	【評価規準】 ＜評価方法＞
導入 5分	1 めあてをもつ。 自分の書いた原稿が石垣島の魅力につながっているか、目的や相手を考え、グループで協力し、情報を整理しよう。	◇これまでの学習を振り返る。	【思考・判断・表現】石垣島の魅力を発信する活動を進めるために、事象を比較したり関連付けたりして理由や根拠を明らかにし、具体的な活動を決定している。＜振り返りシート＞＜フィッシュボーンのシート＞
	2 本時の流れを知る。	◇本時の学習の流れを確認する。 ◇グループで話し合い、協力することを確認する。	
展開 30分	3 個人で整理した情報(記事)が石垣島の魅力になっているかグループで原稿を読み合い、話し合いの視点をもとに話し合う。 	◇話し合いの視点票で確認し、話し合うよう伝える。 ◇考えられないグループには声かけを行う。 ◇いつ、どこで、誰が、何を、なぜ、どのように、の英単語の頭文字を取った5W1Hに基づいて、フィッシュボーンの説明をする。 ◇相手意識や目的意識をもって考えさせる。 ◇黒板に各グループで作成したフィッシュボーンを貼り出す。	【態度】自分と異なる意見や考えを生かしながら、協働的に探究活動に取り組んでいる。＜振り返りシート＞
	話し合いの視点 1 わかりやすい文章になっているか？ 2 石垣島にしかない魅力になっているか？ 4 石垣島の魅力の伝え方を考える。思考ツールを活用して考える。  5 クラスで共有する。		
まとめ 10分	6 振り返り 振り返りの視点を確認して、振り返りシートを書く。 7 授業のフィードバックを聞く。 8 次時の見通しをもつ。	◇振り返りの視点をもとに、活用するよう声かけをする。 ◇本時のフィードバックをする。 ◇次時の確認をする。	

IV 仮説の検証

研究仮説に基づき、問いの追究・振り返りを工夫した、地域素材の活用が、社会に参画しようとする態度の育成に有効であったかを児童の振り返り、授業観察、行動観察、アンケートなどを基に検証を行う。

1 問いを追究する学習活動の効果について

本研究では、学習状況を見取り、指導に生かすために、児童の毎時間の問いと振り返りが相対してわかるように振り返りシートを1枚に作成した(図4)。この振り返りシートは、児童が出した毎時間の問いがどのようなものか、どのような問いに対して、どのような振り返りをしたかが分かるようにした。事前アンケートでは、「問いをもつことができますか」の質問に対し、肯定的な回答をした児童は29%しかおらず、否定的な回答の理由として「問いが何かわからない」「何を書いていいかわからない」等の記述が見られた(図5)。児童が問いをもつために、毎時間の授業の導入で児童に興味・関心をもたせるような発問の工夫や問い返しを5W1Hに基づいて行った。このことから、児童に「なぜだろう」や「本当にそうか

「石垣島のみにく 再発見・発信！」NO.1			
時間	日付	問い	振り返り
1			
2			
3			
4			
5			

図4 問いと振り返りが相対している振り返りシート

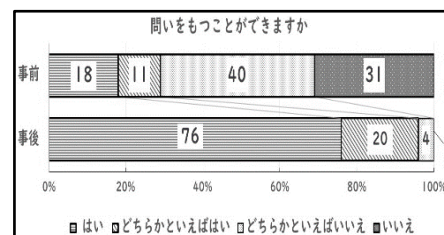


図5 問いをもつことの変容 n=55

な」と出てきた疑問や自分が調べたいと思ったことが自分の問いになることを伝えたことで、自分の問いが徐々に記述できるようになってきた。「問いが何かわからない」と回答していた児童Aの問いの記述内容（図6）から、第2時の問いは「石垣島の魅力ってなんだろう」と問いを書くことができた。第11時になると、「多面的に見たらどんな考えがでるのだろう」と教師の発問から、問いを記述することができてきた。第15時になると「石垣島の魅力を伝えるためにどのように工夫して発表するといいいかな」と5W1Hを意識した問いを立てることができてきた。「問いがあるとそれを調べたくなりますか」のアンケートでは、事前の肯定的な回答は23%であったが、事後で肯定的な回答は100%となった（図7）。その理由として、「問いがあると学習することがわかりやすい」や「問いがどんどんできて調べるとわかることが増えていくから嬉しい」等の記述が見られ、学習を重ねていくうちに、自分の探究したい問が明確に分かり、問いを解決したい意欲や問いを追究する姿が見られた。このことから、毎時間、問いを追究することは、児童の興味・関心を引き出し、学びの連続性が生まれ、有効な手立てであると考えられる。

2 振り返りの工夫の効果について

事前アンケートでは、「振り返りをしていますか」で「はい」と回答した児童は約40%しかおらず、「何を書いていいかわからない」という理由が一番多かった。そのため、振り返りの書き方を明確にする手段として、振り返りの視点を児童に提示し、毎時間の振り返りを記述させた。その際、振り返りの視点（表2）を4つに設定し、①学びの変容の振り返り②学びの過程や結果の振り返り③交流の振り返り④次につなげる振り返りを記入させた。まず、児童らの振り返りを表3でまとめると、第2時の振り返りが「楽しかった」「面白かった」など感覚的な内容が多い振り返りが見られた。第3時の振り返りから少しだけ行数が増えているが、まだ、振り返りの視点を活用して振り返りを書く児童は半分ぐらいであった。第6時から振り返りの視pointsの活用が定着してきたため、自己を客観的に見る記述や内省の深まりが見られる振り返りを記述している児童が増えてきた。また、学びの変容や過程・結果を振り返る記述が多くなった。更に、未記入の児童も0名になった。図8の児童Bは学習に苦手意識をもっている児童である。授業を重ねていくうち行数や内容も変化が表れているのが分かる。このように、毎時間振り返りを行うことで児童が学習したことに対し、思考が整理され、児童の学習意欲が高まり、自信をもつことができたと考える。このことから、総合的な学習の時間でも毎時間振り返りを行うことは有効であると考えられる。

第2時	問い
石垣島の魅力って何だろう？	
第11時	
多面的に見たらどんな考えがでるのだろう？	
第15時	
石垣島の魅力を伝えるためにどのように工夫して発表するといいいかな？	

図6 児童Aの問いの変容

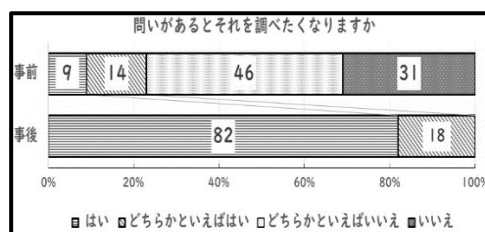


図7 問いに対する意欲の変容 n=55

表3 振り返りの視点の内訳 n=55

授業回数	振り返りの視点					
	①	②	③	④	その他	未記入
第2時	9	5	3	2	24	12
第3時	12	5	7	3	22	6
第6時	30	10	2	5	8	0

楽しかった。	第2時
石垣のみかにはたくさんあるよ。	第3時
豊年祭に関わる人の思いや願いを中心に書くと、いいとグループで話し合った。自分たちも豊年祭に少しでも関わっていいと思った！	第6時
豊年祭の魅力は石垣島にしかない魅力なので、少しでも多く人が参加するように伝えたいと思った！	第12時
多くの人に石垣島の豊年祭について知ってもらい、ぜひみかにも伝えていく。(内地のトイ観光客)にも。私も豊年祭に関わっていい。6年生になったら豊年祭に関わるお仕事がしたい。	第14時

図8 児童Bの振り返り

3 地域素材の活用について

本研究では、探究の学習において地域の「人・もの・こと」を活用してきた。課題設定では、地域の新聞記事から地域の現状把握と市役所の方の話を聞き、石垣島の魅力とそこに携わる方々の思いに触れることで、石垣島の魅力を再確認し、地域について調べてみたいという主体性を引き出すことができた。また、情報収集では、地域の広報誌などから複数の根拠ある情報を収集する様子が見られた。整理・分析を行うことで、石垣島の魅力が伝わるかをグループで再考し、成果物を発信したい場所・人等を自分たちで決めることができた。まとめ・表現では、自分たちで考えた表現方法で成果物を作成し、発信することができた。事前アンケートの「石垣島は好きですか」の質問に対し、否定的な回答をしていた児童の単元全体を通した振り返りには、「最初の授業では石垣島の事はあまり好きではなかった。スーパーも少ないし、遊園地とかもないし、生活が不便と思ったけど、学んでいくうちに良い所がどんどん出てきて、石垣島には良い所や貴重な物がたくさんあるから今は好きになった。壁新聞を多くの人が見てくれて石垣島の魅力が伝わると思う。」の記述が見られた(図9)。また、

さいしよの授業では石垣島のことはあまり好きではなかった。スーパーも少ないし、遊園地とかもないし、生活が不便と思ったけど、学んでいくうちに良い所がどんどん出てきて、石垣島には良いところや貴重な物がたくさんあるから今は好きになった。壁新聞を多くの人が見てくれて石垣島のみ力が伝わるといいとおもう。

図9 児童Cの振り返り

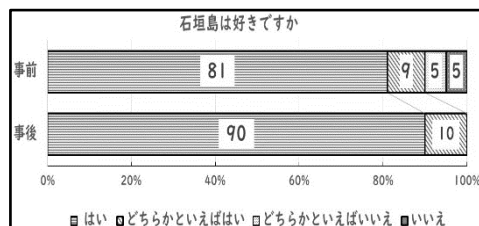


図10 事前・事後アンケート n=55

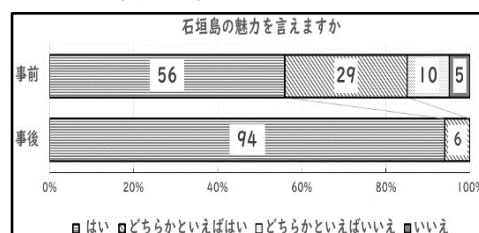


図11 魅力に対する変容 n=55

図10の「石垣島は好きですか」や図11「石垣島の魅力を言えますか」を問う事後のアンケートにおいて、肯定的な回答が100%となった。このことから、地域の素材を活用することは地域に対する思いや関わりを深め、児童に石垣島の魅力が感じられたと考える。

4 探究のプロセスの工夫

(1) 「課題の設定」について

本研究では課題設定のために、まず、石垣島の現状把握を行うため、第1時では全国移住したいランキング石垣市9位の新聞記事を活用した。その記事から、なぜ、石垣市が約1700の市町村の中で9位になったのかを問いにして授業を展開した。児童は「海がきれいだから」「自然が多いから癒される」等と発言し、興味・関心を示していた。その発言から、教師は「本当にそれでランキング9位になるかな」と問い返しを行うことで、児童が「本当はどうか調べたい」という批判的に物事を捉え、実社会・実生活における疑問を解決しようとする意欲的な姿が見られた。第2時で、石垣島の魅力をグループでウェビングを活用し、表出した(図12)。ウェビングを活用することでイメージを広げ、多面的、細分化して捉えた。ウェビングから出た言葉を付箋紙に書き込み、KJ法で整理した。調べたいことを類型化し、分析しながら学習課題を見出すことを目的に行うことができた。その後、児童が石垣島の魅力だということを学級で共有することで、多くの魅力があることに気づくことができた。第3時では、市役所の方に石垣島の魅力や観光についての取り組みやそれに関わる方々の思いや願いについて詳しく話してもらった(図13)。児童らは、ウェビングで出なかった魅力があることにも気づき、「これについて調べたい」と自ら意欲的に課題設定を行うことができた(表4)。



図12 グループでのウェビング



図13 市役所の方の講話に興味をもって聞く児童

表4 サンゴグループの課題の一例

A児	サンゴの種類はどのくらいあるか
B児	サンゴは卵を産むのだろうか
C児	地域で白化現象の違いはあるか
D児	保護活動はどんなことをするのか

(2) 「情報の収集」について

同じ課題に取り組む児童同士がグループとなって活動を行い、インターネットや学校図書、広報誌等を活用して調べた。その際、自分たちの決めた課題の解決方法やその根拠となる情報を考えながら集める作業を協働的に取り組んだ(図14)。また、石垣島のグループは情報が少ないと児童自身が感じ、実際に窯元まで足を運び、インタビューと石垣焼の体験をした。そこで、石垣焼に携わる方に石垣焼への思いや願いを取材していた。第9時の中間発表会では、集めた情報を自分の考えと関連付けながら、自分の言葉で発表した。また、聞き手は聞くポイントを確認し、目的をもちながら発表を聞き、色分けした付箋紙(青→魅力が伝わった、赤→アドバイス、黄→質問)を書いた(図15)。その後、書いた付箋紙をそのグループへ渡したことで児童らが自分の情報を他者とのコミュニケーションを通し、情報の収集をすることができた。課題の解決をするために「人・もの・こと」を活用して、自分事として捉え、情報収集を複数の根拠となる情報の図書資料・広報誌・インターネット等から協働的に学ぶ様子が見られた。



図14 情報収集の様子

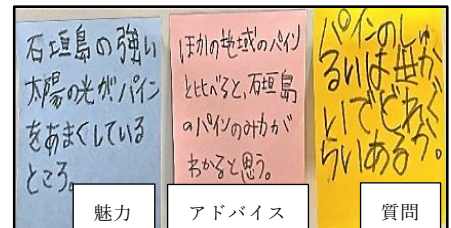


図15 聞き手が書いた中間発表会での付箋紙

(3) 「整理・分析」について

中間発表会の助言(図15)から、石垣島の魅力が伝わるように個人で情報(記事)を再考し、整理した。その整理した個人の情報が石垣島の魅力になっているか、多くの人に伝わるか考えながらグループで原稿を読み合い、話し合いの視点を基に原稿の推敲をグループで協力して活動した(図16)。次に、思考ツールであるフィッシュボーンをグループで活用して、石垣島の魅力の伝え方をグループで考えた。具体的には、①どこで、②誰に、③どのように、④なぜ、に基づいて相手意識や目的意識をもって考えさせることで、情報の整理を行うことができた。児童は、空港や離島ターミナル等の観光客や県外、群外の人々が行き来をする場所をほとんどのグループが記述していた。その際、成果物を見てもらうためには、自分が調べたことに関わる人々の思いや願いが一番伝わるのではないかと話し合いをするグループの姿も見られた。

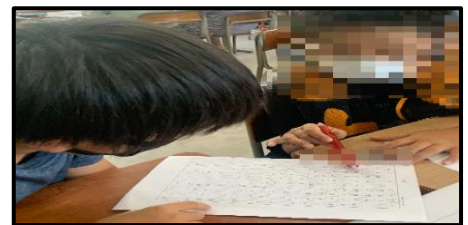


図16 原稿を推敲している様子

(4) 「まとめ・表現」について

個人の情報を持ち寄り、石垣島の魅力を伝えるために相手や目的を明確にして、壁新聞やパンフレットをグループで協力し、まとめ、作成をした。その際、伝えるための工夫、多くの人が目にするための工夫をグループで話し合った。児童らの成果物は思考ツールで考えた、離島ターミナルや空港などの伝えたい場所や伝えたい人を誰にするかを決め、展示した。その際、観光客等が移動中でも手に取って読めるよう、A1サイズの壁新聞(図17)をA4サイズに縮小し、持ち帰りできるように工夫していた(図18)。



図17 完成した壁新聞の一例

5 社会に参画しようとする態度の高まり

本研究では、社会に参画しようとする態度の高まりを問いの追究と振り返りの工夫、地域素材の活用の3つの手立てを児童の振り返りシートの記述やアンケート等から検証していく。1つ目に問いの追究について考察する。問いを追究するた

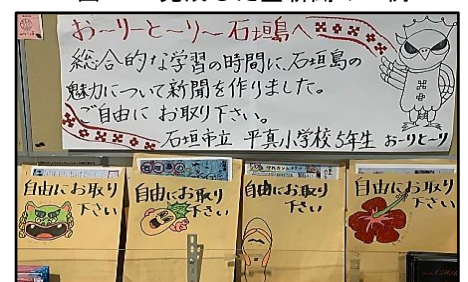


図18 壁新聞の縮小版の展示

めに、毎時間の授業の導入で児童に興味・関心をもつような発問や問い返しをした。すると、第5・6時からスムーズに問いの記述ができる児童が約6割に増えた。これは、児童が追究したいことが明確になり、問いを追究することを毎時間行い、定着を図ることで児童の「知りたい」「調べたい」という意欲を高め、協働的に学習活動をし、問いをもつことができたと考える(表5)。2つ目に振り返りの工夫について考察する。振り返りの視点を意識した毎時間の振り返りをする。振り返りに対して課題が見られる児童Fの振り返りは、第1時に「楽しかった」の記述だったため、振り返りの視点を一緒に確認した。学習を重ねるごとに振り返りの視点を見ながら、少しずつ行数が増え、その時間に学習したことの結果を振り返る記述が見られた。また、単元の最後の振り返りには、「サンゴの保護活動に関わっている人にも協力したい」、「ビーチクリーンを続けていく」等、主体的に社会に関わろうとする記述があり、実践の意欲が伺える(図19)。3つ目に地域素材の活用について考察する。本単元で扱う地域の「人・もの・こと」である素材の中から児童自ら課題を設定し、学習への興味・関心を高め、主体的に課題解決に向けて学習活動に取り組んだ。第5～8時の情報収集の場面において「インターネットや図書資料だけでは情報が不足していると感じたグループは他の方法も考えて調べよう」と地域との繋がりも意識した情報収集を図った。その結果、課題解決に向け取材や体験・見学、電話でのインタビュー等、地域に関わろうとする姿が見受けられた(表6)。また、地域に対する思いや繋がりがアンケートの結果からも読み取れる(図20・21)。「石垣島をよくするために何をすべきか考えたことがありますか」の質問で肯定的な回答が向上し、「地域行事に参加したいですか」では全員が肯定的な意見をもつようになった。以上より地域を見つめ、問いの追究・振り返りの工夫を行うことで社会に参画しようとする態度の育成に有効だったと考える。

表5 問いがあると調べたくなる理由 n=55

問いがあると学習することが分かる	51%
問いが次々出て解決できる	31%
同じ問いの人と協力できる	10%
問いがあるとやる気がでる	5%
その他	3%

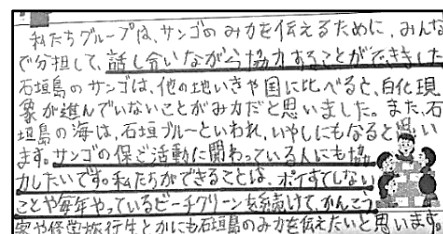


図19 単元最後の児童Fの振り返り

表6 情報収集の工夫

- ・〇〇かま元で取材してきました。ついでに体験もさせてもらいました。
- ・西表野生生物保護センターへ電話でインタビューしました。カンムリワシの事を5つ質問しました。
- ・〇〇さんの父さんがパイン農家なのでパインの話を畑に聞きに行きました。

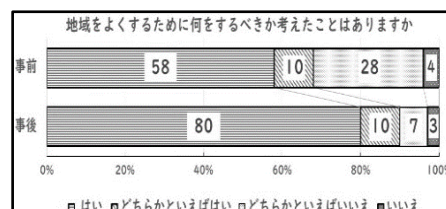


図20 地域をよくするために考えることができたかの変容 n=55

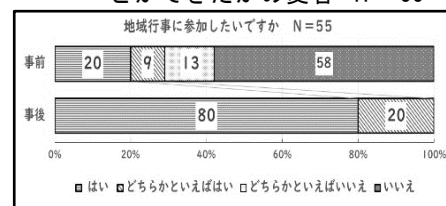


図21 地域行事への参加意欲の変容

V 成果と課題

1 成果

- (1) 地域素材を活用することで、地域の魅力に興味・関心をもち、地域の良さを再確認し、地域の一員という意識が高まり、社会に参画しようとする態度を育成することができた。
- (2) 問いの追究を毎時間意識したことで、児童が主体的に問いを解決しようと学習活動に取り組み、学びの連続性が生まれ、問いをもつことができた。
- (3) 総合的な学習の時間においても毎時間の振り返りをするすることで、児童の思考が整理され、学習意欲が高まり、充実感・達成感を味わうことができた。

2 課題

- (1) 社会に参画しようとする態度を継続するために、次の学年との繋がりを意識して取り組むことが必要である。
- (2) 学習活動を深めるために、他教科との繋がりや教科横断的な学習計画を立てる必要がある。

＜参考文献＞

- 沖縄県教育委員会 2022 『沖縄県学力向上推進 5か年プラン・プロジェクトⅡ 令和4年度版』
- 沖縄県教育委員会 2022 『「問い」が生まれる授業 サポートガイド 令和4年度版』
- 文部科学省 2021 『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開【小学校編】』 アイフィス
- 松村英治 2021 『令和時代の総合的な学習の時間入門』 東洋館出版社
- 国立教育政策研究所教育課程研究センター 2020 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【小学校 総合的な学習の時間】』 東洋館出版社
- 文部科学省 2018 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編』 東洋館出版社
- 北俊夫 2018 「社会参画は「授業参画」から」『ぶんけい教育 ほっとにゅーすかわら版 教育の小径 11月号』 文溪堂
- 田村学 2018 『深い学び』 東洋館出版社
- 鈴木登美代 2017 「地域教材，学習環境の活用」『初等教育資料 12月号』 東洋館出版社
- 田村学 2015 『授業を磨く』 東洋館出版社
- 寺本潔・嘉納英明・山内かおり・道田泰司 2009 『言語力が育つ社会科授業—対話から討論まで—』 教育出版社

＜参考 Web サイト＞

- 黒上晴夫・小島亜華里・泰山裕 2012 「シンキングツール～考えることを教えたい～」
- http://ks-lab.net/haruo/thinking_tool/short.pdf（最終閲覧 2022 年 6 月）